「結びの挨拶　1」　　2019 年 03 月 20 日

コロサイの信徒への手紙 4 章 7 節～11 節　わたしの様子については、ティキコがすべてを話すことでしょう。彼は主に結ばれた、愛する兄弟、忠実に仕える者、仲間の僕です。彼をそちらに送るのは、あなたがたがわたしたちの様子を知り、彼によって心が励まされるためなのです。また、あなたがたの一人、忠実な愛する兄弟オネシモを一緒に行かせます。彼らは、こちらの事情をすべて知らせるでしょう。わたしと一緒に捕らわれの身となっているアリスタルコが、そしてバルナバのいとこマルコが、あなたがたによろしくと言っています。このマルコについては、もしそちらに行ったら迎えるようにとの指示を、あなたがたは受けているはずです。ユストと呼ばれるイエスも、よろしくと言っています。割礼を受けた者では、この三人だけが神の国のために共に働く者であり、わたしにとって慰めとなった人々です。

最後に、一人ひとりの名を上げ、「よろしく」との結びの挨拶を書いている。「わたしの様子については、ティキコがすべてを話すことでしょう。彼は主に結ばれた、愛する兄弟、忠実に仕える者、仲間の僕です。 彼をそちらに送るのは、あなたがたがわたしたちの様子を知り、彼によって心が励まされるためなのです。」ティキコは、パウロがシリア州に向かって船出しようとしたところ､パウロに対するユダヤ人の陰謀があることを聞いて、遠回りしてマケドニア州を通って帰ることにした時、同行した弟子の一人である。彼を通して、私の囚われの様子を知り、あなたがたの励ましになると書いている。「あなたがたの一人、忠実な愛する兄弟オネシモを一緒に行かせます。彼らは、こちらの事情をすべて知らせるでしょう。」オネシモはフィレモン書では、パウロの下に逃亡した奴隷で、愛する子になった人の名前であるが、当人かどうかは分からない。オネシモをティキコと一緒に行かせるので、こちらの事情を話すと言っている。「わたしと一緒に捕らわれの身となっているアリスタルコ」は、エフェソで投獄されたパウロの同行者である。「バルナバのいとこマルコが、あなたがたによろしくと言っています。このマルコについては、もしそちらに行ったら迎えるようにとの指示を、あなたがたは受けているはずです。」バルナバは、タルソスにいたパウロをアンティオキア教会に連れ出し、第一宣教旅行をした同労者である。マルコは、最後の晩餐を行った「二階の広間」の持ち主マリア（使徒言行録 12：12）の息子ではないか。彼は、パウロとバルナバの第一宣教旅行に同行している。

主イエスがゲツセマネで死ぬほどの苦しみの中で祈られた時、同行していたペトロ、ヤコブ、ヨハネは眠り込んでいた。誰も見聞きしていない主イエスの祈りを誰が伝えたのかという疑問が残る。主イエスが捕縛され、弟子たちが逃げ去った後、マルコ福音書 14 章 51 節に、「一人の若者が、素肌に亜麻布をまとってイエスについて来ていた。人々が捕らえようとすると、亜麻布を捨てて裸で逃げてしまった」と不釣り合いな記述がある。この若者がマルコではないか。彼は、母マリアが尊敬し、惜しまずに協力をする主イエスはどんな人かと、若者らしい好奇心で後をつけ、主イエスの深刻な祈りを見聞きし、後世に伝えたのではないか、と私は想像している。マルコがそちらに行った時は、迎えるように指示を与えていた。「ユストと呼ばれるイエスも、よろしくと言っています。」彼については不明である。バルナバ、マルコ、ユストの 3 人が割礼を受けたユダヤ人キリスト者で、彼らは神の国にために働く同労者で、「著者」の慰めになった人々であると言う。